

高等学校 令和5年度（2学年用）

教科 社会（地歴）

科目 世界史探究

教科： 地理歴史 科目： 科目 世界史探究

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1・2、3・4、5、6、7・8組：宮本）

使用教科書：（詳説世界史探究（山川出版））

教科 教科 社会（地歴） の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会を実現するための課題を主体的に解決しようとする態度を養う。日本や他国の文化を尊重することの大切さを自覚し、深める。

科目 科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・ 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが周辺諸国の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・ 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。	・ 古代の歴史の変遷と、現代の歴史との関連性について考察し、表現している。 ・ 原典史料から読み取った情報の意味や意義、特色などを自ら考察し、表現している。	・ 中学校社会の授業や昨年「歴史総合」での学びを生かし、世界史を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 単元 世界史へのまなざし 第1章 文明の成立と古代文明の特質  【知識及び技能】 ・各地の文明および文化的遺産について理解する。 ・民族の移動・興亡がその地域にもたらした変化を理解する。  【思考力、判断力、表現力等】 ・史料を基にして、自然環境と生活や文化との関連性や、農耕・牧畜への変化など、人間の生活の変化について考察する。  【主体的に学習に取り組む態度等】 ・日常生活と世界史の繋がりについて、興味・関心を持ちながら学習に取り組む	・指導事項 世界史へのまなざし1 1. 文明の誕生 2. 古代オリエント文明とその周辺 3. 南アジアの古代文明 4. 中国の古代文明について（殷周の時代まで）	【知識及び技能】 ・自然環境と人類の関わり、および人類の進化の過程の概要を理解している。 ・オリエント、南アジア、中国の古代文明について理解している  【思考力、判断力、表現力】 ・日常生活の中に世界史とつながっているものを見出し、自分自身と世界とのつながりを多面的・多角的に考察している。 ・資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。  【主体的に学習に取り組む態度】 ・古代文明、文明の誕生、オリエント文明、南アジア、中国の古代文明について、自らが抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	11
定期考査			○	○	○	1

1 学 期	<p>B 単元 第1章 中国史 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界</p> <p>【知識及び技能】 ・秦・漢帝国の形成の歴史とその諸制度を理解する。 ・魏晋南北朝国家の形成の歴史とその諸制度を理解する。 ・遊牧民族の変遷と中国との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・遊牧民族と中国王朝の関係について説明できるようになる。 ・鮮卑系国家がなぜ漢化政策を行ったのか、その理由を考察し、説明できるようになる。 【主体的に学習に取り組む態度等】 ・古代中国における遊牧民族と中国との関係が現代とどのようにつながるか自ら考える。</p>	<p>・指導事項 4. 中国の古代文明（続き） 5. 南北アメリカ文明 6. 中央ユーラシア 7. 秦・漢帝国 8. 中国の動乱と変容 9. 東アジア文化圏の形成</p>	<p>【知識・技能】 ・遊牧民族の生活及び、中国と遊牧民族国家の関係を理解する。 ・魏晋南北朝～隋唐時代の流れを理解する。 ・中国の文化を中心とした東アジア世界の文化を理解する。 【思考・判断・表現】 ・秦・漢・魏晋南北朝時代における遊牧民族と中国人の関係について適切に説明できる。 ・鮮卑系国家が少数民族でありながら、漢化政策を通してどのように中国王朝を築き上げたのか説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遊牧民族及び中国王朝、両勢力の関係について、自らが抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見直しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	<p>C 単元 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成（途中まで）</p> <p>【知識及び技能】 ・仏教やジャイナ教について理解する ・マウリヤ朝、クシャーナ朝など、インドの統一王朝について理解する 東南アジア、イラン、ギリシアの風土や文化について理解する 【思考力・判断力・表現力等】 ・仏教やジャイナ教の成立過程について考え、説明することができる ・インド統一王朝と仏教の関係、中国からのやってくる仏教徒との関連、ギリシア世界と仏教の関連をせつめいできるようになる。 【主体的に学習に取り組む力等】 ・南アジア諸国家、東南アジア諸国家、古代ギリシアの世界について自ら学習に取り組む。</p>	<p>・指導事項 10. 仏教の成立と南アジアの統一国家 11. インド古典文化とヒンドゥー教の定着 12. 東南アジア世界の形成と展開 13. イラン諸国家の興亡とイラン文明 14. ギリシア人の都市国家</p>	<p>【知識・技能】 ・南アジアで生まれた様々な宗教が諸地域に与えた影響を理解する。 ・イラン系国家の興亡について理解する。 ・アテネに民主政が登場した経緯を理解する。 【思考・判断・表現】 ・『エリュトウラー海案内記』の資料をもとに、インド洋交易の広がりについて考え、表現できる。 ・東南アジア、南アジア、中央アジア、中国及びその他国家との交流・交易について考察して表現できる。 ・オストラコンに関する資料をもとに、アテネ民主政の仕組みを考察して表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・インドの古典文化や東南アジアの諸国家、イラン文明、古代ギリシア時代について自ら抱いた興味・関心や疑問、追求してみたいことを見出して学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1

